

ハヤトウリ

メキシコ南部から南米北部にかけての熱帯アメリカが原産のつる性植物。「干成」とも呼ばれるほど実つきがよい。漬物が一般的ですが、サラダや炒め物などでも食べられます。

4月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

作型

充実した種実を入手して上手に貯蔵する。芽出した果実は深植しない。支柱は丈夫なもので作る。花は孫づるに着くので、摘芯して孫づるを多く出させる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え (実生)				△	-----	△	-----	-----	-----	■	■	■	白色種・緑色種

△：植え付け ■：収穫

畑の準備(実生植)

土づくり aあたり	
堆 肥	80~100kg (15~20kg/株)
元 肥 aあたり	
油 粕	400g~1.2kg (100g/株)
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	



果実を半分ほど上に出して植える。



植え付け(実生)

- 霜に弱いので3~4月頃発芽してきたら、土や砂を入れた鉢に植え付ける。(この時、肥料や水をやる必要はない。)
- 晩霜のおそれなくなった頃、芽が出たものを植え付ける。
- 植え付け間隔は4~5m×4~5mに1株を目安にする。(4~6株/a)

摘芯・追肥(孫づるに着果させる)

- 摘芯は本葉4~5枚で行う。
- 子づるを3~4本伸ばし、8~10枚目で摘芯し、孫づるを出させ、これに結実させる。
- 追肥は、つるが盛んに伸びだした頃(8月上旬)生育に応じて油粕(400g/株)を株から少しはなして施用する。
- 支柱は丈夫な支柱を立て、誘引する。



防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
アブラムシ類	光反射マルチを張る 光反射テープを張る	マラソン乳剤 2,000~3,000倍 収穫前日まで 3回以内
うどんこ病	窒素の多施用を避ける	ダコニール1000 1000倍 ウリ類(漬物用、但しユウガオを除く) 収穫前日まで 4回以内

収 獲(霜が降りる前に収穫を終えないと果実が傷む)

- 開花後10~20日が収穫適期である。漬物などの加工用は30~35日後のものを使う。
- 霜にあうと果実が傷むので、それまでに収穫を終える。

種果の保存

- 霜にあてない果実をモミガラを入れた箱の中に詰めて保存する。
- 暖房しない室内に置いておく。

裏面はハコベ・シロツメクサについて掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.336 平成31年4月17日発行

ハコベ

一年草または越年草で、畑地や道端、空き地などに生育する春の代表的な草。極寒気を除いてほぼ一年中発芽する。肥沃な土壌ほど生育が良く、旺盛な繁殖力を示す。茎は分枝して株になり四方に広がっていく。高さは10~30cmになり、3~11月に茎の先に白色の花を多数つける。細い花びらが10枚あるように見えるが、これは5枚の花びらがそれぞれ2つに深く裂けているためである。春の七草のひとつで、草姿や花がそっくりなミドリハコベと共に「ハコベラ」とされていたようです。

防除のポイント

発生場所の刈り込みを丁寧に実施する。秋から早春に発生した個体は春早くから生育を開始し大型化することから、秋に土壌処理型除草剤を散布し、春までの発生を抑える。



ハコベ (開花期)



ハコベ (生育初期)



ハコベ (生育中期)

シロツメクサ

ヨーロッパ原産の帰化植物。多年草で、種子・ほふく茎で繁殖する。牧草として輸入し栽培されたものが逸出して野生化した。現在では芝生、道ばた、畑地などに生育する。茎は丈夫で横に這い、節から葉を出す。4~7月に長い花柄の先に白い花が密集し、丸い花穂となる。葉は幅の広い倒卵形で、中央にVの字の白い模様のある3枚の小葉に分かれている。グラウンドカバーや雑草の抑制、緑肥など、実用的な用途で使われることも多い。一般にクローバーと呼ばれている。

防除のポイント

発生したら大きくなる前に早めの防除を実施する。開花期である4~7月頃 (特に6月) の刈り込みを随時行うことで種子の形成を抑え、種子由来の新しい株の発生を抑える。



開花したシロツメクサの群落



シロツメクサ (生育中期)



シロツメクサ (ほふく茎)